

垂水区塩屋台（塩屋大池）：1♂，26. VI. 1991.

須磨区多井畑奥須磨公園（小松池）：1♂，1. VII. 1990. 1♂1♀，15. VIII. 1991.

中央区葺合町宇川：1♂，26. VII. 1971.

中央区熊内橋通：1♂，8. IX. 1971.

灘区摩耶山町：1♂幼，12. III. 1991.

神戸市全域に棲息しているが数は減っている。黄昏時に群れ飛ぶ姿は、神戸市ではもはや過去のものとなったような感がある。

以上、採集記録は、12種であるが、西区扨谷町松本（湯出池）において、1992年8月22日にオオギンヤンマ *Anax guttatus* (BURMEISTER) を目撃している。これは飛来による偶産である。ネアカヨシヤンマ、サラサヤンマ以外については、すべて幼虫の棲息を確認しているので、神戸市に定着していることは間違いない。サラサヤンマの幼虫は特殊な環境に生活し、非常に発見しにくい。しかし、同じ場所で何度も♂の縄張りを観察し、産卵行動も見ていたので定着しているといつて良いであろう。ネアカヨシヤンマについては、公式に発表はされていないが、産卵行動の観察報告を受けている。本種は市内で場所を点々としながら、細々と発生を繰り返していると思われる。

<参考文献>

青木典司，1991a. 神戸市のトンボ相・分布追認調査. *gracile*, 45:27-32.

———，1991b. 神戸市のサナエトンボ調査. *gracile*, 46:13-18.

岩崎正道，1977. 神戸市兵庫区道場付近のトンボ相. きべりはむし, 5(1/2):1-7.

松本健嗣，1982. 神戸市周辺の蜻蛉目. きべりはむし, 10(2):1-10.

キンボシハネカクシ神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・268)

高橋寿郎

キンボシハネカクシ *Ocybus weisei* Harold, 1877. とにかく美しい大形のハネカクシである。筆

者はかつて養父郡氷の山々麓大久保で道路上を歩いている黄金色に輝いて見える本種に出会い驚き同時に喜んだものである。この標本は澤田高平博士に同定をお願いして同博士の手許に保管されている (lex., 2—Ⅶ—1956, T. Takahashi leg.) それ以後県下からの記録が意外と無い、筆者の知り得たものは多紀郡篠山町上籠坊 [仲田, 1982]。豊岡市内 [高橋, 1975] の2ヶ所位である。原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ) (1985) によると平地、低山地にすむとあるからもっと記録があっても良いと思うのだが、1992年6月1日午前8時頃久方振りの快晴の太陽の照る神戸市烏原貯水池畔の道路上を美しい黄金色をしたキンボシハネカクシが歩いているのに出会った。実に36年振りの出会いであった。このような身近な所にいることがわかり大変喜んでいる。生きて歩いている時は黄金色に見えるのだが標本になるとあまり美しいとは思われない。ハネカクシの中では大形の種に属すると思われる (体長16.0—19.0mmとある)。注意して頂けるともっと産地が多くあるのではないだろうか。

クロオビツツハムシの新産地

(兵 庫 県 産 甲 虫 相 資 料 . 2 6 9)

高 橋 寿 郎

クロオビツツハムシ *Physosmaragdina nigrifrons* (Hope) はハッキリした色彩をしていて見ようによっては派手で美しいハムシであり夏のハムシとして、またススキを食草としているハムシでも知られている。本種の兵庫県での分布は筆者本誌上 (Vol. 19, No. 1, 1991) に報告しておいたが1992年7月29日蜂谷幸雄氏は神戸市西区寺谷のススキに多くいるのを目撃されカラー写真に撮影同時に採集をしてその内の1頭を御恵与頂いた。また同じ年の8月6, 7日に兵庫県生物学会夏期研修会が笠形山でありそこで本種が採集されている記録が真野育三氏によってされている (兵庫生物ニュース No. 9 : 47, 1992)。現在の所兵庫県下での記録で一番北の地点がこの笠形山になると考えられている。瀬戸内に面した海岸線に近い地域には広く分布していることがわかっているが北の方の記録が全く知られていない。このあたりの分布がどうなのか調べて見たいと思っている。末筆ながら写真並びに標本を御恵与下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。